

## 2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
123141079	消費生活論 Consumer life theory	村上仁美			2	選択	4前期

## 科目の概要

この授業は、消費活動や消費者をめぐる問題を経済学および法律的側面から考察することにより、DP2・3の衣・食・住に関連する専門的知識を身に付け、社会に貢献できる人材の育成を目指します。  
 具体的には、合理的な判断、自己利益の追求を行う「経済人（ホモ・エコノミスト）」を想定する伝統的な経済学だけでなく、実験や心理学的知見を分析に取り入れた行動経済学も取り入れることにより、消費者問題に対して、より実践的なアプローチを目指します。また、消費生活に関する法律的知識を修得することにより、日常生活で直面するであろう諸問題に適切に対処する能力を身に付け、DP1の社会人基礎力の向上を目指します。  
 \*Google Classroomにより課題の提出、質問の受付を行います。

学修内容	到達目標
① 消費者行動について、伝統的な経済学および行動経済学に関する理論モデルについて学修する ② 家計はどのような消費者問題に直面し、その時代背景はどのようなものかを学修する ③ 製品の安全性確保、消費者情報の保護、価格表示の規制など消費生活に関わる法律について学修する	① 消費者行動について、従来の経済学の枠組みから新しいアプローチや理論である行動経済学への移行を理解し、人間の心理的影響の重要性を説明することができる ② 消費者問題に対処するために、政府や関連団体がどのような対策を講じたか、またそれらの対策がどのように実施されてきたかを説明することができる ③ 消費生活に関わる法律を理解し、日常生活に活かすことができる

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	日々の生活を何となく送るのではなく、なぜ自分がそのような行動をとったのかを意識し、客観的に捉える
	働きかけ力	
	実行力	新聞、テレビ、インターネットなどから消費者問題に関する情報を収集する
考え抜く力	課題発見力	日常生活において、どのような消費者問題が生じる可能性があるか考えてみる
	計画力	
	創造力	実際に生じた消費者問題の原因と解決策を考えてみる
チームで働く力	発信力	グループワークの場では、自分の意見を言うことができる
	傾聴力	教員の講義および他の学生の発言に耳を傾け、理解することができる
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻をせず、授業に集中することができる
	ストレスコントロール力	

## テキスト及び参考文献

テキスト：神山 久美等（編）『新しい消費者教育－これからの消費生活を考える－第2版』慶應義塾大学出版会，2019年，1,800円＋税  
 参考書：細川幸一『大学生が知っておきたい消費生活と法律』慶應義塾大学出版会，2019年，1,800円＋税

## 他科目との関連、資格との関連

この授業は、『ビジネス・地域活性の科目群』に属しています。  
 また、経済学、社会学、法学など社会科学に分類されるさまざまな知識を活用します。具体的には、「心理学」「社会学」「日本国憲法」「生活学概論」「生活経済論」「地域の暮らしと生産」と関連します。

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に新聞、テレビ、インターネットなどを閲覧し、社会や経済の動向を注視してください。この授業は、みなさんの身近なトピックを扱うため、世の中に目を向けることが授業のおもしろさにつながると 생각합니다。</li> <li>予習は、その週の授業内容に関心を持つ、復習は、その週の授業内容をより深く理解するという意図で出しています。</li> </ul>	授業内容につながりがあるため、実習、病気などで授業を欠席する場合は、他の受講生に連絡し、配布物を貰っておき、次の授業までに目を通しておいてください。また、授業時間内にGoogle Classroomを使用するので、スマートフォン、タブレットなどを持参してください。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	70	①	✓	講義で学習した内容を理解しているのかを確認する。また計算問題では、適切な解法を使っているか、計算の過程も評価する（部分点あり）。 筆記試験での出題割合 知識の獲得（各章のキーワードの意味を問う問題）40%～50% 知識の活用（小テストの類似問題）20%～30% 知識の解決（グループディスカッションのテーマに関して、その具体的な改善策を提案する問題）20%～30%	
			②	✓		
			③	✓		
	平常評価	小テスト	10	①	✓	到達目標①に関する復習プリントに取り組み、基礎力を身に付けることを目的とします。 *内容の出来・不出来は問いません。学期末試験までに解けるようにしておいてください。
				②		
				③		
平常評価	レポート	10	①		第8回目の講義（グループワーク）に参加し、その結果をレポートとしてまとめる。（400字程度の予定） *内容の質に関しては重要視しません	
			②	✓		
			③	✓		
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①			
			②			
			③			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性&実行力） 各授業のトピックを新聞・書籍・ネットなどを使って調べる←授業の最後に配布するシートでチェック （課題発見力） 各授業のトピックを自分なりの視点で見ることができる。←授業の最後に配布するシートでチェック （発信力） ディスカッションに積極的に参加していない。←減点 （傾聴力） 話を聞く姿勢ができていない。←減点 （規律性） 講義に支障をきたす行動などは減点する。←減点	
			②	✓		
			③	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>授業に積極的に参加し、授業内容の修得に熱心である。筆記試験において、授業で学習した内容および小テスト（復習プリント）に関連する基礎&amp;応用問題を解くことができている。また、ディスカッションでは、事前にテーマに関する情報を収集し、ディスカッション中には、傾聴・発言がともに出来ている。さらに、他の学生の意見もふまえ、多角的な視野に立ったレポートを作成することができている。</p>	<p>授業に積極的に参加している。筆記試験において、授業で学習した内容および小テスト（復習プリント）に関連する基礎問題を解くことができている。また、ディスカッションでは、傾聴・発言がともに出来ており、適切な表現で、自分の意見をレポートにまとめることができている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	ガイダンス *授業の進め方と評価方法を理解する。また、シラバスを用いて、この授業の学修内容や学修目的などを理解する。 序章 経済学とは？ *今後、消費者行動に関する理論モデルを学修する上で必要となる経済用語を説明する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	シラバスをよく読み、この授業の目的、内容、学修の到達目標を理解している。また、受講上の注意点を理解している。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる(毎回、出席確認時に、アンケート形式で確認します) ②テキストの目次を確認し、授業への関心を深める <復習> シラバスで受講上の注意点を確認する	180	主体性 傾聴力 規律性
2	第1章 消費者行動の理論① *伝統的な経済学における消費者行動の理論として、序数的効用と基数的効用、無差別曲線、予算制約線などを学び、消費の決定に関するモデルを理解する。また、所得消費曲線を導出し、正常財・劣等財の特徴についても学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	序数的効用と基数的効用、効用関数、無差別曲線について説明することができる。また無差別曲線の4つの特徴を列挙することができる。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②モノを購入する際、自分がどのような行動をとるのかイメージする(例えば、前回購入時よりも値段が上がった商品や所得が増えた場合、購買意欲はどうか?) <復習> 配布したレジュメを読み返し、消費者均衡点を求める過程を説明することができるようにしておく	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
3	第1章 消費者行動の理論② *前回、授業で学んだ知識を使って、所得消費曲線を導出し、正常財・劣等財の特徴を学ぶ。また、所得と消費量の関係を表す指標である需要の所得弾力性についても学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	図を使って、所得消費曲線の導出方法を説明することができる	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②普段、「決められたお小遣いの範囲で、何をどれだけ買うか？」を自分がどのように決めているか意識してみる(授業で学ぶ消費者行動の理論が、実際の消費行動をどの程度、反映できているかを確認するためです) <復習> レジュメを読み返し、所得消費曲線の導出方法、需要の所得弾力性の計算方法を復習しておく	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
4	第2章 市場機能の限界 *伝統的な経済学において、市場メカニズムがうまく機能しない例として、独占・寡占市場、外部性、情報の非対称性について学ぶ。また、伝統的経済学が想定する「利己的」、その対義語である「利他的」について理解する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	伝統的な経済学における市場メカニズムの限界について、具体例を用いて説明することができる。また、伝統的な経済学が想定する「個人」の特徴についても説明することができる。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②新聞、テレビ、インターネットなどで、「市場がうまく機能していない」と考えられる事象を探し、その問題点をあげておく <復習> 配布したレジュメを読み返し、伝統的経済学の市場メカニズムの特徴を復習しておく	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
5	第3章 消費経済学の基本概念 *消費経済学とは、どのような学問で、何を分析対象とするのかを学ぶ。また、社会の構造変化による新たな課題について理解し、その課題を消費経済学から捉えるうえで重要となる「情報の非対称性」「限定合理性」「サステナビリティ」について学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	情報の非対称性、限定合理性、サステナビリティとは何かを説明することができる。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②自分の普段の行動を振り返ってみて、どのような行動が合理的でないか考えて、書き留めておく <復習> 配布したレジュメを読み返し、消費者経済学の定義、情報の非対称性、限定合理性、サステナビリティとは何かを短い文章でまとめておく	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
6	第4章 消費者の心理と行動 *人間の非合理的なふるまいを分析に取り入れた行動経済学の基礎知識として、プロスペクト理論、現状維持バイアス、双曲割引などを学び、主観的な行動が消費者トラブルを招く可能性があることを理解する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	価値関数の図の形状から、人の意思決定について説明することができる。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②「主観」と「客観」について調べ、その違いを書き留めておく <復習> 配布したレジュメを読み返し、行動経済学の専門用語を理解しておく(暗記する必要はありませんが、その語の解説を選択肢から選べるレベルまでにはしてください。)	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
7	第5章 市場の機能と消費者政策 *消費者の脆弱性やネット社会など生活環境の変化や、エシカル消費などの新たな社会的価値観を学ぶとともに、行動経済学的な新たな消費者政策についても学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	消費者の脆弱性とは何かを述べることができ、また、ネット社会の普及が脆弱性に与える影響について説明することができる。	<予習> 完全競争市場が成立する条件4つを書籍やネットで調べておく <復習> 配布したレジュメを読み返し、生活環境や社会的価値観が変化したことにより、消費者が抱える課題がどう変化し、どのような政策が取られてきたのかをまとめておくこと	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
8	グループワーク *行動経済学に関する課題	グループワーク & レポート作成 <レポートの作成方法の参考>【津田塾大学 ライティングセンター】レポートの書き方 <a href="https://twc.tsuda.ac.jp/news/202007/20200708000000455.html">https://twc.tsuda.ac.jp/news/202007/20200708000000455.html</a> *本レポートにタイトルページや目次、参考文献をつける必要はありません。文章構成の参考に使用してください。	他の学生の意見を聴くとともに、自分の考えを伝えることができる	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②第4章、第5章のレジュメを見直し、プロスペクト理論およびナッジ理論について理解しておく。 <復習> 自分の身の回りでナッジ理論の応用例を探してみる	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	第6章 法律と消費者教育 *法の形式、法の分類、法秩序の諸原則といった法律に関する基礎知識を学ぶ。また、消費者教育の目的やその体系について理解する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	法の形式、法の分類、法秩序の諸原則を理解し、法律間の優先順位が分かる。また、消費者教育の目的とその取組みについて具体的に挙げるができる。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②テキストの第1章・第2章を読み、消費者教育の目的と歴史的背景を理解しておく <復習> テキスト第2章2節の消費者教育の歴史について、その出来事を年表にしておく(簡単でいいです)	180	実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
10	第7章 消費者の安全に関する制度 *商品の安全性の関連法令として、消費者基本法や消費者安全法など、食品の安全性の関連法令として食品安全基本法や食品表示法などを取り上げ、その法律の目的と経緯を学ぶ。また、PSCマーク制度など安全を守るための制度としてどのようなものがあるのかも学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	消費者安全法や食品安全基本法など消費者の安全・安心にかかわる法律と関連する制度の目的を説明することができる	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②新聞・書籍・ネットなどを用い、商品と食の安全性が脅かされた事例を調べる <復習> テキスト第6章および配布したレジュメを読み返し、その法律や制度がどのような経緯でつくられたのかを復習しておく	180	実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
11	第8章 契約と法律 *契約の効力、契約の無効・取消を理解する。また、悪質商法としてどのようなものがあるかを知り、特定商取引法や消費者契約法など消費者の権利や利益を守る法律についても学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	消費者契約法やクーリング・オフなど契約にかかわる法律を理解できている。また、契約の取消しおよび無効事項を説明できる。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②新聞・書籍・ネットなどを用い、悪質商法の事例を調べる <復習> テキストの第7章および配布したレジュメを読み返し、マルチ商法などの悪質商法に直面した場合の対処法として関連法令を覚えておく(暗記する必要はありません)	180	実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
12	第9章 販売信用と消費者金融 *生活と借金について考え、販売信用や消費者金融の現状を理解する。また、多重債務、自己破産の意味、その防止策を学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	クレジットカードの仕組みや危険性を理解し、銀行と消費者金融の違いを説明することができる	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②新聞やネットなどで、借金トラブルについて調べる <復習> テキストの第9章および配布したレジュメを読み返し、特定商取引法の対象取引とその取引のクーリング・オフ期間を覚える。	180	実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
13	第10章 ネット社会と消費者トラブル *ネット取引でのトラブルやネットに関連するトラブルについて学び、ネット社会との付き合い方を考える	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	情報モラルやメディアリテラシーを説明でき、その重要性を理解している。また、具体的なネットトラブルについて、ある程度、知っている。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②ネットなどで、ネット取引の危険性に関する記事(過去の事件など)を探す <復習> テキストの第10章および配布したレジュメを読み返し、ネットトラブルに巻き込まれないために何が必要かを考える	180	実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
14	第11章 消費者の責任と企業の責任 *消費者団体とは何かを理解し、日本の主な消費者団体や消費者運動の類型について学ぶ。また、グリーンコンシューマーやグッドマンの法則など消費者や企業の取組みについても学ぶ	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	消費者団体や消費者運動について説明することができる。また、製品に対する消費者や企業の責任の重要性を理解し、その取組みについて、ある程度知っている。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②新聞・ネットなどで、過去の消費者運動について調べる <復習> テキストの第3章・第4章および配布したレジュメを読み返し、消費者運動の歴史的背景を理解し、消費者問題に対する消費者や企業の具体的な取組みを整理しておく	180	実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
15	学期末試験に向けて(筆記試験を行うにあたって、問題数や配点、問題の傾向についてお話しします) & 小テスト(復習プリント) *消費者行動の理論に関する問題(記述式で論述式ではありません)	オンデマンド配信	復習プリントの内容を理解し、応用問題にチャレンジできる (定期試験で、応用問題を出題する予定)	<予習> 第1章から第5章までのレジュメを確認する <復習> 学期末試験の準備 ・復習プリントの内容を十分に理解する ・第8週のグループディスカッションをもとに作成したレポートをブラッシュアップしておく	180	主体性 課題発 見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力